

2023年3月期 中間決算について

2022年 11月7日
JFE鋼板株式会社

2022年9月中間期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(百万円未満切捨て)

連結経営成績

(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
2022年9月中間期	40,036	26.6	3,125	-	2,166
2021年9月中間期	31,621	24.8	2,176	-	1,501

注 連結子会社数

2022年9月中間期 5社、2021年9月中間期 5社

(百万円未満切捨て)

(参考)単体経営成績

(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
2022年9月中間期	35,361	27.6	2,724	-	2,022
2021年9月中間期	27,708	26.4	1,988	-	1,456

【当中間期の概況と損益】

当中間期は、国内薄板建材需要の減速によるめっき鋼板を中心とした鋼板製品の販売数量減少、工事関係部門(含むグループ会社)での物件等の回復遅れや採算改善が十分に進まなかったことがありましたが、鋼板製品の品種構成・販売価格が改善した効果により、連結売上高が40,036百万円(前年同期比+8,415百万円、+26.6%)と大幅な増収になりました。

連結損益は、鋼板製品の販売価格改善、製造ラインの生産性向上および安定操業によるコストダウン、管理費削減に加えて、一過性の要因として在庫評価益が大きく寄与し、経常利益は3,125百万円(前年同期比+949百万円)、当期純利益は2,166百万円(前年同期比+665百万円)となりました。

【当期の見通し】

国内薄板建材需要は、倉庫を中心に非住宅が堅調な一方で、一戸建・リフォームは弱含んでおり、世界的なインフレと急激な円安が相まった輸入物価の上昇等による国内景気への悪影響もあり、懸念される状況にあると認識しています。先行きに不透明感はありますが、鋼板市況は足元の水準で推移すると見通しています。

このような経営環境において以下の施策を実施し、収益力向上を目指します。

- 1) カラー鋼板、特に当社が力を入れている環境負荷の低いクロメートフリー鋼板について、積極的な販売活動を進めます。
- 2) 品質・操業安定化とともに、カラー鋼板の生産性向上、原材料高騰対応など、合理化への取り組みをより一層進めます。
- 3) お客様には当社の置かれている状況をご理解いただき、再生産可能な適正価格の実現に取り組めます。また、鋼板製品の小ロット品や低採算品の販売価格を改善する活動も継続して行います。

以上